

学校研究

1 研究主題

自ら考え，共に再構築するみずほっ子を目指して
～「考えたい」「深めたい」でつながる単元・授業デザイン～

2 主題設定の理由

令和7年度は，対話やふり返りを通して，問題解決のために，他者と関わり合いながら自分の言葉で伝え合うみずほっ子を目指し，学校研究に取り組んだ。日々の授業の中で，児童同士の対話が活発に行われる風土づくりに努めるとともに，ふり返りによって自己の変容に目を向けることができるよう研究を進めた。その結果，児童アンケートの回答結果からは，理由や根拠を示しながら自分の言葉で伝え合おうとする意識の高まりが見られた。ふり返り記述においても，授業前後での自己の変容に目を向けるふり返りを書く児童が多くなった。

しかし，研究授業の整理会等では，考えの交流は活発にされていたが，自分の考えを深めようとする児童の姿はあまり見られなかったという課題が挙げられた。また，日頃の授業に目を向けた職員アンケートにおいても，子供たち同士で積極的に考えを出し合いながら課題解決に向かおうとする姿勢や，批判的に聞き合いながら考えを練り上げようとする姿勢が乏しいという課題が挙げられた。学びに向かう主体性，交流を通して課題解決を図ろうとする協働性が，本校の課題として浮き彫りとなった。

そこで，今年度は，学習を自分事として捉え，他者との関わりを通して，課題解決に向かおうとする児童の育成を目指し，上記の研究主題を設定するに至った。付けたい資質・能力を「学びに向かう意欲」に設定し，羽咋市がデジタル環境における新しい学び方として掲げている「スタディ DIvE!」の考えに則しながら，その向上を図りたいと考えている。

3 目指す児童像

令和8年度の学校研究で目指す児童像を以下のように考えた。

- ・学習を自分事として捉え，課題解決に向かおうとする児童
- ・他者との関わりを通して，課題解決に向かおうとする児童

4 研究仮説

目指す児童像の実現に向け，以下の仮説を打ち立てた。

児童が解決の必要性を感じる魅力的な教材提示と，多様な考えに触れ，自分の考えを再構築する対話の場を意図的に組み込んだ授業・単元を設計することで，学習を自分事として捉えながら課題解決に向かう姿勢，他者との関わりを通して課題解決に向かう姿勢が児童に身につくであろう。

5 具体的な取組

仮説を実証するに当たり、目指す児童像の実現に向けた取組を以下のように考えた。

📁 基盤づくり

- ・行事や特別活動での児童の意欲が可視化された掲示コーナー
- ・帯タイム学習を用いた基礎・基本の定着
- ・学びを定着させるための学力調査問題集の整理

📁 授業づくり

- ・「自ら考えたい」という意欲を引き出す導入の工夫
- ・「友達と交流したい」と思える発問の工夫
- ・課題解決までのプロセスを自己決定できる環境づくり
- ・単元デザインシートでの学びの可視化と見取り
- ・「自己の変容」「他者との協働」に焦点を当てた振り返り

6 研究の検証方法

以下の通りに検証方法を設定する。

- ①NRT・学期末テスト・国/県/市学力テスト等の結果の分析
- ②学習に関する教師・児童アンケートの量的分析
- ③対話の様子や振り返り記述の変容の質的分析

7 研究組織

部会名	取組内容	メンバー
研究推進	研究方針の提案 指導案の提案・検討	北・酒井・室野
授業力向上 (授業づくり)	模擬授業&整理会運営 相互参観授業 研修支援	室野・品川・柳橋・新瀬
環境整備 (基盤づくり)	朝自習&ドリルタイム 学習掲示コーナー整備	市塚・平野・土肥
集計・分析	学力調査の集計&分析	酒井・各学担
検証	取組の検証 進捗状況の確認	北・室野・酒井

